

平成29年度大学ポートレートステークホルダー・ボード 主な意見

1. 日時 平成29年11月27日（月） 10:00～12:00
2. 場所 学術総合センタービル11階 1112会議室

【一覧機能について】

- ・ステークホルダーのニーズを満たしつつ、安易なランキング化に繋がらないよう配慮する必要があるが、両立はなかなか難しいという印象である。（大野学長）
- ・ランキング化についての懸念は大学ポートレート（仮称）準備委員会のころから指摘されており、同じ議論を繰り返しているように思う。大学の風評被害になりかねないという意見があるが、例えばST比などは大規模大学より小規模大学のほうが値が良い。民間にも既に多くの大学ランキングがあるが、中にはとんでもない指標を使っているものもある。そうしたものを勝手に蔓延させてしまうより、良い指標を示すほうが良いのではないか。（金子教授）
- ・高校への広報なども行っているが利用者が少ない現状、大学ポートレートのステータスを上げる必要があるのではないか。現状、高校教員のICTに関する能力は決して高くない。収集しているデータについて、紙に出力できる機能があるとよいのではないか。（千葉委員）
- ・高校の生徒指導の現場において、広告と情報は必ずしも区別されていない現状がある。その点で大学ポートレートが確かな情報を出していくことは重要。（千葉委員）
- ・すでに実装されている一覧機能に教育内容に関する項目がなかったのは疑問。また、学部・学科の検索に手間取り、学科レベルの情報が少ない。高校生が進路を考えるために、学科名称や学びたいことから検索できるようにしてほしい。（杉谷委員）
- ・大学の情報公開は十年前に比べれば飛躍的に進んだ。入りたい大学、学びたいことが学べる大学を見つけるための機能を推進していくべき。（千葉委員）
- ・授業料の一覧については改善していただきたい。（小林主査）

【公表・検索項目について】

- ・大学入試センターの運営していた「ハートシステム」はセンター試験の情報とも連携しており、教員としては利用しやすかった。当該システムの検索項目については参考にしてほしい。（千葉委員）

【公表項目について・入力方法の変更など】

- ・公表項目としては学生、教員についてのデータはもちろんだが、海外からの学生の受け入れ状況、海外への留学状況なども学生は意識している。卒業後の状況、退学率なども重要な情報である。（柴田委員）
- ・大学ポートレートで公開すべき情報と大学で公開すべき情報があり分けて考える必要があるが、例えば休学中の授業料や授業料未納の場合の対応については各大学で異なっていることから、項目として重要と考える。（小林主査）

【情報公開・情報活用について】

- 大学ポートレートのステークホルダーは学生だけでなく社会全体である。大学無償化の議論がされている今、大学の質について外部からの視線は厳しくなっている。民間企業の取り組みとの差異を明確にし、大学ポートレートの重要性を社会に示す必要。(金子教授)
- 国公立大学は機構、私立大学は私学事業団がデータを持っているため一覧機能などについて取組に差が出ているとのことだが、利用者側からすれば一緒に閲覧できることが当然だと思う。(金子教授)
- 大学無償化の議論がされる中、情報公開の要請は高まっている。自主的に情報公開をしないならば制度として実施させるべきだという考え方も今後出てくる可能性があるだろう。これからの大学運営において、制度だから仕方なくやるというのでは十分ではない。民間でも様々な情報がある中で、大学ポートレートの場において、受け身ではなく、むしろこういう情報や観点を出せば自分の大学が有利になる、そういう発想を持って情報を大学からも出してほしい。(堀野室長)
- 今の高校教員は同じ学校に長い期間務めることができないため、生徒指導の蓄積がしにくくなっている。大学ポートレートで生徒指導の現場を育てていく意識も必要ではないか。(千葉委員)
- 奨学金の情報が複雑化している。高校の先生が使えるようにしてほしい。ランキングにつながる情報ではないと思うので、データをエクセルまたは csv で提供できるようにしてほしい。データをどう使うかは現場に考えていただく。まずは提供することが大事であろう (小林主査)

【その他】

- 高校教員は操作方法がわからないためか利用頻度は高くない。教員が使用していないので生徒、保護者にも存在が伝わっていないのではないかと。大学ポートレートの広報に力を入れる必要がある。(大野学長)
- 短期大学が高等教育で重要な役割を示していくには、積極的に情報を開示していき、そのポテンシャルを示せる媒体として、大学ポートレートが活用できればよい。(大野学長)
- 短期大学においては、国際発信に積極的に参加する大学は少ないと思われる。国内の学生にとって有用性のある内容が求められる。(大野学長)
- 大学ポートレートの機能について改めて検討の必要があるのではないかと。(金子教授)
- 平成24年の中教審の報告資料では大学ポートレートの機能として他の統計調査との連携や比較機能についても盛り込まれていた。それから5年経った現在、当時の資料の内容が実現されていない。一方でこの間も公費が投入されており、これは行政上も問題があるのではないかと。民間の取り組みを調査する、データベースのニーズを調べるなどの取り組みはなかったのか。(金子教授)
- アクセス数について現在は全体の数しか出ていないが、国公立別に出すことはできないか。(小林主査)
- 高校 HP から大学ポートレートにリンクを張ってもらえばアクセス数も増加するのではないかと。(柴田委員)
- 高校にも大学ポートレートというものがあるというだけでなく、今後は一覧化したデータを打ち出せるなど、具体的な機能を紹介していく必要があるのではないかと。(千葉委員)